



## 令和2年 新年を迎えて

### 副代表 三枝 忠生

新年明けましておめでとうございます。

昨年5月から令和の時代が始まりました。同じ日に養成講座を終えた、期待の星である7期生11名が仲間となり総勢36名の所帯となりました。

前年、京田辺市観光ボランティアガイド協会の活動の肝の部分である自主企画活動の大幅な改善を行い、コンセプト別に“ウォーキンググループ” “歴史グループ” “体験グループ”の3グループに分けましたが人数不足等があり上手く機能しない面がありました。そこで“歴史・体験グループ”と“ウォーキンググループ”の2グループに編成し直し再スタートしました。本来の目標であるプロジェクトの企画から資料作り、ツアーの実施までをグループ内で回せるようになりつつあります。このことに各

自が積極的に取り組むことにより各人のレベルが向上すると確信しています。この体制になってからの最近のツアー事例を紹介します  
①「縄文から弥生の京田辺を巡る」の企画は数々の遺跡と同志社大学歴史資料館が見られ考古学ファンにとっては堪らないコースだと思います。

②「京田辺の絶景を楽しみながら山背古道を歩く」の企画は古代の南山城の面影を一望できる一度は行って見たいコースだと思います。

このように今までにない新しいコンセプトの芽生えが見られます。今年も、我々のパフォーマンスを向上させ、よりお客様には満足していただけるよう、より地域には貢献できるよう、より会員自身も楽しめるよう、持続可能な会の運営を目指します。

## 京田辺の祭りと神事 東大寺二月堂竹送り

京田辺の冬の風物詩といえば「竹送り」がまず挙げられるでしょう。「お水取り」の名で知られる二月堂の修二会、正式には十一面悔過法と呼ばれますが、その中でお松明として使われる真竹を運ぶ行事が「竹送り」です。修二会「お水取り」の行法は天平勝宝4年(752)東大寺開山良弁僧正の高弟実忠和尚(大御堂観音寺第一世)によって始められ、今日まで一度も途切れることなく連綿と引き継がれています。

二月堂の舞台を駆け抜ける松明の炎は有名ですが、かつては山城地方からも沢山の寄進竹が送り出されていました。しかし、第二次大戦で途絶えその風習は次第に忘れ去られました。そんな中、昭和53年(1978)「山城松明講社」の力により「竹送り」は復活、毎年周囲30cm以上・長さ7mの真竹約8本が大御堂観音寺で道中安全祈願の後、二月堂へ奉納

されています。平成31年の第42回竹送り行程表は次のとおりです。

◇2月11日(建国記念の日) 7:45受付(観音寺)→8:00(竹林に移動・寄進竹2本掘り起こし)→8:40普賢寺ふれあいの駅(大根炊き接待)→9:10(大御堂観音寺 道中安全祈願)→9:30寄進竹・予約送迎バス出発→10:30転害門広場到着～11:20出発→12:20二月堂到着

この長い歴史ある竹送り行事には誰でも参加できます。皆さんも是非一度は参加してみませんか。(古野)





## ガイド日誌

### 京田辺ふれあいハイク 10月29日 「京田辺にこんな歴史が！ 大嘗会田と大住隼人舞」

当日はあいにくの雨でしたが歴史のお好きな熱心なお客様22名で実施しました。大嘗祭を前に「京田辺にはかつてこんな風に朝廷とのかかわりがあった」をテーマとし、天津神社（10/14に大住隼人舞を月読神社に先駆けて奉納）、大住車塚古墳、大嘗会田跡伝承地、両讃寺、月読神社をご案内。北部住民センターで大住隼人舞のビデオを鑑賞し、隼人舞に使用される盾・弓などの展示を見学しました。

大住地域は奈良時代に勅命により九州南部の隼人が移住したところ。以後この地は隼人司の管轄するところとなり、歴代天皇の即位の盛典にあたって行われる大嘗祭では隼人舞の奉納・警護などこの村の住民が務めています。また大嘗会のための料として所領の田園が長い間保有され農作物などが朝廷に献上されてきました。（「大嘗料」として地名を残す）



両讃寺さんではご住職のお話を伺いました。地名の「八小路」の謂れ、多数の仏さまのお話、大住の信仰、隼人舞が能の源流となった（諸説あり）と言われていること。そして安置されている薬師如来は、神仏習合の時代にはあった福養寺（月読神社の神宮寺）より廃仏毀釈のため引き取り、それがなぜ秘仏となり御開帳されないか、など興味が尽きないお話も伺いました。帰路につく頃には雨も上がり、皆様は無事帰宅の途に就かれました。（熊澤）

### 京田辺ふれあいハイク 11月14日 「神社の下は古墳だった？」

#### こんなところに遺跡・古墳！ 縄文から弥生の京田辺を巡る」

新元号『令和』になり初めての秋。遙か昔の『大化』から更に昔の縄文時代既に人々の営みがあったであろう三山木周辺。今も自然のまま残されている同志社構内の遺跡を訪ねました。

先ず訪れたのは山崎神社。神社へ向かう坂の途中振り返ると眼前に飯岡丘陵地、目線を下げれば古代山陽道。『続日本紀』に和銅4年「山本駅設

置」が記載されている。山本駅はどの辺りと思いを馳せるが平成25年調査では建物の規格規模からは直接結びつかないとあり、この辺りは弥生集落跡でその後古代山陽道の最初の駅が置かれた。

山崎神社は古墳の上に移築されたと知られている。ここからは縄文時代の石棒・異形石器が見つかっている。



旧道を北へ向かうと天神山遺跡があり、弥生後期の広場を囲む様に竪穴住居跡が残されている。同志社構内の歴史資料館・下司古墳群・大御堂裏山古墳を巡り、自然のままに保存されている遺跡を自由に散策出来る事に感謝しつつ学舎を後にしました。（北野）

### 京田辺ふれあいハイク 11月19日 「甘南備山の三角点と 一休寺の紅葉を楽しむ」

JR松井山手駅より虚空蔵堂を経て甘南備山の三角点から神南備神社・展望台で昼食の後一休寺の紅葉を楽しみ、JR京田辺駅にて解散のハイキングだった。

野外センターから木もれ日のトンネルを落葉を歩いた。やわらかい落葉の感覚はこの時期にしかなく誠に気持ちが良い。各種のドングリを拾いながら、ゆっくりペースで三角点に到着。コンパス（磁石）で方位を確認。右に比叡山、左に愛宕山そして正面に北山連峰が連なる千年の歴史を刻んだ京都が一望でき、京都タワーがぼんやり見えのは好運だった。

雌山から雄山への尾根道は今年の台風21号により檜の大木が軒並み倒れた（根返り）。また周囲の雑木がほとんどなぎ倒されている中で真直ぐな大木が10メートルほどの高さで折れている。枝は全くない。この大木が幹から直接たくさんの新芽を出している。台風に負けないで残った大木がどのように育つのか楽しみだ。きっと遅く、大きく枝を伸ばして堂々と育っているのではないかと。10年後、20年後が楽しみだ。見てみたい。



天候に恵まれ、一休寺の紅葉が素晴らしく、ゆっくり自然を楽しんだ1日だった。

（近藤）



1月25日(土)

「美味しい玉露の淹れ方と  
飯岡の茶畑風景」



本コースは京田辺の特産品、日本一の玉露の淹れ方を専門のインストラクターに指導してもらい、実際に体験することをメインとしたコースです。また淹れ方教室と

合わせ、風光明媚な飯岡（いのおか）などを見てもらうお手軽なハイキングも行います。

飯岡は、京田辺市東部の木津川沿いの丘陵地で多くの茶畑があり、日光を遮る覆（おおい）を備えた玉露の栽培畑も多く見られます。沿道で運がよければ白く可憐なお茶の花がまだ見られるかもしれません。

また飯岡はたいへん眺めのよい丘陵でその頂上からは眼下に茶畑・東に木津川の清流・北に京都・西に甘南備の山容・南に奈良方面を望むことができます。そしてその頂上はまた古墳という文化財でもあります。コースには他にもいくつかの文化財が散在しており、京田辺の美しい田園風景とともに一日をお楽しみいただけると思います。

参加費：300円 集合/解散：同志社前駅

時間：9:30～15:00頃

JR同志社前駅<集合>-昨岡神社(草内・草地城跡)-中部住民センター(美味しい玉露の淹れ方教室)-飯岡の茶畑風景と古墳群-JR同志社前駅<解散>歩程約8km

その他の行事についても、京田辺市観光ボランティアガイド協会のホームページでご確認いただけます♪



アドレスはこちら↓↓

<https://kyotanabe-guide-volun.jimdofree.com>

2月27日(木)

「木津川の渡し場巡り  
第2弾」

～京田辺から精華～

木津川にはかつて、「木津川の渡し（渡し船）」がいくつもありました。

今回は、木津川の玉水橋畔にある「山本の渡し場」をスタートし、上流精華町の「藪の渡し」、「下狛の渡し」、「開の渡し」、「祝園の渡し」、「菅井の渡し」と木津川の堤防を歩きます。

北を眺めれば愛宕山、比叡山、南には奈良の若草山、生駒山と堤防からの眺望は最高です。また、近くに見える里山風景や古代に「狛山」と詠まれた対岸地域の山々など景色もとても良いところです。



嵐山～木津間の自転車道をツーリングする人たちにも出会います。さて、堤防の管理道路上に「L18.8」と大きな数字が表示されていますが、はたしてこれは何でしょうか？

途中、木津川沿いの「百久保無縁仏墓地」や京都府の無形民俗文化財の指定を受けている居籠祭で有名な祝園神社や京田辺の伽和羅古戦場跡石碑に登場する「武埴安彦破斬旧跡」などにも立ち寄ります。

心地よい風を感じながら、見どころ満載の早春のウォークを楽しみましょう。（高低差のない平坦なコースです）皆様のご参加をお待ちしております。

集合：JR三山木駅 9:00

解散：祝園駅 12:30頃 雨天決行

参加費：300円

JR三山木駅→山本の渡し→藪の渡し→◎西光寺墓地→◎百久保地先遺跡出土の石造物→下狛の渡し→むくのきセンター(休憩)→開きの渡し→(郡山街道)→◎祝園神社→◎武埴安彦破斬旧跡→祝園の渡し→菅井の渡し→祝園駅歩程約8km

# ガイドの豆知識 あらめて見たい！樹木・草花たち

京田辺市のスローガンに“緑豊かな文化田園都市”とあります。それを踏まえ、当会は市に残したい巨木や銘木を選定するため保存木選定チームを結成、京田辺の巨木を求めて歩き回りました。市内には樹齢100～200年くらいの巨木がなんとか残されていました。そうして現在約55本の保存木候補をまとめました。しかしながら、昨今、自然災害が深刻化し、特に昨年の台風で多くの樹木が倒れました。それに追いつけるように、巨木は危険とのことで、切り倒されたものも。保存木にと考えていた巨木もすでに4本が無くなり、とても残念に思います。

観光ガイドといえば史跡・旧跡がメインですが、歴史を歩んできた巨木にも史跡と同じくらいの値打ちがあると思っていますので、樹木や草花といった自然や地理的展望などもガイドとしてもっと取り入れたい分野なのです。そんな流れの中で作成し、活用したのが「諏訪が原公園の樹木観察(約50本)」「秋の甘南備山の紅葉を訪ねて(約20本)」「春と秋の野草20」などの写真入りの解説です。自然の草花や樹木が好きな方々には好評をいただきました。

何気ない風景の中に溶け込んでいる樹木や草花たち。一部ご紹介します。改めて周りの植物をじっくりとみてみませんか。  
(石橋)



エノキ(榎) 花期4~5月

成長が早く、巨木は夏に日陰をつくるので榎(という漢字)。かつては旅人の道しるべとして街道沿いに植えられた。国蝶オオムラサキの食草。写真は諏訪神社への登りにあったエノキの巨木。昨年の台風で倒木し、今はない。



メタセコイア 花期2~3月

諏訪が原公園に約30本、田辺高校グラウンドにも多数ある。1945年揚子江の奥地で発見。それまで化石しか知られていなかったので「生きた化石」として有名になった。幹はまっすぐのび、整った円錐形の樹形になる。



クサノオウ  
(瘡の王)

花期4~7月  
高船加工センターの周辺にたくさん見られる。茎や葉を切ると黄色い汁がでるので草の黄という説と丹毒(皮ふ病)に効くので瘡の王という説がある。近くの山の上に瘡を患う者の平癒祈願の信仰がある笠上神社があるのは偶然か？



ウラシマソウ  
(浦島草)

花期3~5月  
尾根道から朱智神社に入るところに群生。この仲間は仏炎苞が良く目立つ。ウラシマソウは花穂の先についた糸状の付属体が釣り糸のように長く伸びているため浦島太郎の釣り糸に見立てたもの。